

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米国での新たな政策による影響をはじめ、欧州経済や新興国経済の動向など依然として先行き不透明な状況にあります。雇用・所得環境に改善の動きが見られるなど緩やかな回復基調を続けております。

調剤薬局事業におきましては、平成28年4月に実施されました調剤報酬改定では「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた施策が反映され、薬局・薬剤師に求められる役割が大きく変化してきております。また、ヘルスケア事業におきましては、介護サービス利用者の増加に伴い、人材の確保およびサービスの向上が課題となっております。

当社は、超高齢社会の進展に伴い、医療・介護サービスの需要は今後も拡大するものと捉え、「良質の医療・介護サービスをより多くの人に提供する」という理念の下、「フラワー薬局」、「ハーモニーハウス」のブランド力の強化を図りながら更なる成長に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高7,757百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益379百万円(同36.3%増)、経常利益377百万円(同56.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益239百万円(同25.0%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、新たに2店舗を開局した一方で、閉局により1店舗減少しましたので当社グループの調剤薬局は合計95店舗となりました。平成28年4月に実施された調剤報酬改定および薬価改定による影響を受け売上高は前期を下回りましたが、利益面においては、改定の影響はあるものの後発医薬品の使用促進、在宅医療への積極的な取組みなどにより調剤報酬は回復傾向にあり増益となりました。

この結果、売上高5,657百万円(前年同期比4.0%減)、営業利益447百万円(同20.8%増)となりました。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームの継続的な入居者確保、および平成28年9月にグループ化した子会社の売上が寄与したことで、増収増益となりました。

この結果、売上高1,473百万円(前年同期比31.4%増)、営業利益89百万円(同69.9%増)となりました。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、三重県、岐阜県、愛知県および滋賀県を中心に積極的な営業活動を行った結果、売上高は伸長しました。利益面におきましては、価格競争が厳しさを増す市場環境の影響を受け微増にとどまりました。

この結果、売上高594百万円(前年同期比11.5%増)、営業利益24百万円(同4.3%増)となりました。(内部売上を含む売上高は792百万円となり、前年同期比で15.3%増加しました。)

#### (不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高32百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益17百万円(同27.1%増)となりました。

また、投資事業におきましては、有価証券売却益8百万円(前年同期比97.0%減)を計上しております。

なお、セグメント間の内部売上高として207百万円を消去するとともに、全社における共通経費として200百万円を計上しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は25,764百万円となり、前連結会計年度末と比較して856百万円増加いたしました。

流動資産の合計は11,173百万円となり、前連結会計年度末と比較して651百万円増加いたしました。これは主に、売掛金の増加265百万円、その他(預け金)の増加206百万円、商品の増加70百万円によるものです。

固定資産の合計は14,591百万円となり、前連結会計年度末と比較して204百万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券の増加153百万円によるものです。

負債合計は17,477百万円となり、前連結会計年度末と比較して664百万円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加417百万円、賞与引当金の増加159百万円によるものです。

純資産合計は8,286百万円となり、前連結会計年度末と比較して191百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の配当を76百万円行ったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益を239百万円計上したことによるものです。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の業績予想につきましては、平成29年4月7日公表の数値から変更はありません。